

# 《小学校家庭・中学校家庭分野・高校家庭》学習指導系統一覽

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成、配布しております。

	小学校家庭	中学校家庭分野	家庭基礎	家庭総合	
目 標	<p><b>家庭科の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 家庭生活を大切にす心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>	<p><b>技術・家庭科の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p><b>家庭科の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>		
		<p><b>家庭分野の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p><b>家庭基礎の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>	<p><b>家庭総合の目標</b></p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>	
家族・家庭と人の一生にかかわる内容	<p><b>A 家族・家庭生活</b></p> <p>次の(1)から(4)までの項目について、課題をもって、家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>自分の成長と家族・家庭生活</b></p> <p>ア 自分の成長を自覚し、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。</p>	<p><b>A 家族・家庭生活</b></p> <p>次の(1)から(4)までの項目について、課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>自分の成長と家族・家庭生活</b></p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。</p>	<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>次の(1)から(5)までの項目について、生涯を見通し主体的に生活するために、家族や地域社会の人々と協力・協働し、実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>生涯の生活設計</b></p> <p>ア 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。</p> <p>イ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫すること。</p>	<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>次の(1)から(5)までの項目について、生涯を見通し主体的に生活するために、家族や地域社会の人々と協力・協働し、実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>生涯の生活設計</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>ア 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。</p> <p>イ 生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>イ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫すること。</p>	

	小学校家庭	中学校家庭分野	家庭基礎	家庭総合	
家族・家庭と人の一生にかかわる内容	<p><b>(2) 家庭生活と仕事</b></p> <p>ア 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。</p> <p>イ 家庭の仕事の計画を考え、工夫すること。</p> <p><b>(3) 家族や地域の人々との関わり</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。</p> <p>イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。</p>	<p><b>(3) 家族・家庭や地域との関わり</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p>	<p><b>(2) 青年期の自立と家族・家庭</b></p> <p>ア 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めること。</p> <p>イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。</p>	<p><b>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めること。</p> <p>(イ) 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めること。</p> <p>イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。</p>	
		<p><b>(2) 幼児の生活と家族</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。</p> <p>(イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</p>	<p><b>(3) 子供の生活と保育</b></p> <p>ア 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。</p> <p>イ 子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること。</p>	<p><b>(3) 子供との関わりと保育・福祉</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めること。</p> <p>イ 子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子供との適切な関わり方を工夫すること。</p>	
		<p><b>(3) 家族・家庭や地域との関わり</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p>	<p><b>(4) 高齢期の生活と福祉</b></p> <p>ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。</p> <p>イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。</p>	<p><b>(4) 高齢者との関わりと福祉</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。</p> <p>イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫すること。</p>	
				<p><b>(5) 共生社会と福祉</b></p> <p>ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。</p> <p>イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。</p>	<p><b>(5) 共生社会と福祉</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。</p> <p>(イ) 家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めること。</p> <p>イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫すること。</p>

	小学校家庭	中学校家庭分野	家庭基礎	家庭総合
	<p><b>B 衣食住の生活</b></p> <p>次の(1)から(6)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>食事の役割</b></p> <p>ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。</p> <p>イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること。</p> <p>(2) <b>調理の基礎</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解すること。</p> <p>(イ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できること。</p> <p>(ウ) 材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできること。</p> <p>(エ) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできること。</p> <p>(オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。</p> <p>イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること。</p> <p>(3) <b>栄養を考えた食事</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解すること。</p> <p>(イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解すること。</p> <p>(ウ) 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解すること。</p> <p>イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫すること。</p>	<p><b>B 衣食住の生活</b></p> <p>次の(1)から(7)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>食事の役割と中学生の栄養の特徴</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解すること。</p> <p>イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>(2) <b>中学生に必要な栄養を満たす食事</b></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。</p> <p>イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。</p> <p>(3) <b>日常食の調理と地域の食文化</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。</p> <p>(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。</p> <p>(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。</p> <p>(エ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。</p> <p>イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p>	<p><b>B 衣食住の生活の自立と設計</b></p> <p>次の(1)から(3)までの項目について、健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>食生活と健康</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>(イ) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>イ 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫すること。</p>	<p><b>B 衣食住の生活の科学と文化</b></p> <p>次の(1)から(3)までの項目について、健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) <b>食生活の科学と文化</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解すること。</p> <p>(イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>(ウ) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>イ 主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫すること。</p>
	<p>(4) <b>衣服の着用と手入れ</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。</p> <p>(イ) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること。</p> <p>イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。</p> <p>(5) <b>生活を豊かにするための布を用いた製作</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。</p> <p>(イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。</p> <p>イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p>	<p>(4) <b>衣服の選択と手入れ</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</p> <p>(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。</p> <p>イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。</p> <p>(5) <b>生活を豊かにするための布を用いた製作</b></p> <p>ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。</p> <p>イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。</p>	<p>(2) <b>衣生活と健康</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <p>(イ) 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>イ 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。</p>	<p>(2) <b>衣生活の科学と文化</b></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めること。</p> <p>(イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <p>(ウ) 被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けること。</p> <p>イ 主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫すること。</p>

	小学校家庭	中学校家庭分野	家庭基礎	家庭総合
食生活・衣生活・住生活にかかわる内容	<p>(6) 快適な住まい方</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。</p> <p>(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。</p> <p>イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。</p>	<p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。</p> <p>(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。</p>	<p>(3) 住生活と住環境</p> <p>ア ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>イ 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫すること。</p>	<p>(3) 住生活の科学と文化</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めること。</p> <p>(イ) ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。</p> <p>(ウ) 家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できること。</p> <p>イ 主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫すること。</p>
	消費生活と環境にかかわる内容	<p><b>C 消費生活・環境</b></p> <p>次の(1)及び(2)の項目について、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 物や金銭の使い方と買物</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。</p> <p>(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること。</p>	<p><b>C 消費生活・環境</b></p> <p>次の(1)から(3)までの項目について、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。</p> <p>(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。</p> <p>イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。</p>	<p><b>C 持続可能な消費生活・環境</b></p> <p>次の(1)から(3)までの項目について、持続可能な社会を構築するために実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <p>ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。</p> <p>イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。</p>
	<p>(2) 環境に配慮した生活</p> <p>ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。</p> <p>イ 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。</p>		<p>(2) 消費行動と意思決定</p> <p>ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。</p> <p>イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。</p>	<p>(2) 消費行動と意思決定</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>(イ) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。</p> <p>イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫すること。</p>
			<p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解すること。</p> <p>イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫すること。</p>	<p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めること。</p> <p>イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫すること。</p>

	小学校家庭	中学校家庭分野	家庭基礎	家庭総合
実践的な活動	※生活の課題と実践 (2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる)	※生活の課題と実践 (三項目のうち、一以上を選択し履修させる)	<b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b> 生活上の課題を設定し、解決に向けて生活を科学的に探究したり、創造したりすることができるよう次の事項を指導する。 ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。 イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。	<b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b> 生活上の課題を設定し、解決に向けて生活を科学的に探究したり、創造したりすることができるよう次の事項を指導する。 ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。 イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。
	<b>A 家族・家庭生活</b> <b>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</b> ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。	<b>A 家族・家庭生活</b> <b>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</b> ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。		
		<b>B 衣食住の生活</b> <b>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</b> ア 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。		
		<b>C 消費生活・環境</b> <b>(3) 消費生活・環境についての課題と実践</b> ア 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できること。		



**開隆堂出版株式会社**

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6丁目11番地 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403  
 東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎022(742)1213  
 名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741  
 大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782  
 九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎092(733)0174